

第59回 全道へき地複式教育研究大会胆振大会を終えて

北海道教育庁胆振教育局

局長 宮田 康宏



北海道へき地・複式教育研究連盟におかれましては、昭和27年の第1回大会以来、長年にわたりその時々の教育課題に応える実践研究を積み重ねられ、全道のへき地・複式教育の振興・充実に多大な貢献をい

ただいております。

また、このたびの第59回全道へき地複式教育研究大会胆振大会においても、全道各地から多数の教職員の参加のもと、大きな成果を上げて終えることができたこと伺っており、関係各位の熱意と努力に心から敬意を表します。

さて、今日、学校教育においては、小学校における新しい学習指導要領の全面実施を目前に控え、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむことが、ますます重要になってきております。

とりわけ、へき地・複式教育においては、子ども同士の豊かなかかわり合いのある活動を通して、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、それらを活用する力を高めることはもとより、豊かな人間性や社会性をはぐくむことが課題となっております。

このような中、本研究大会においては、「未来をたくましく生きぬく胆振の子らに、豊かな心と確かな学力を」を大会スローガンに掲げ、胆振管内の小学校9校を会場に授業公開や研究協議を通して研究を深められ、全道各地にその成果を発信していただいたことは、誠に意義深く、心強く思うところです。今後とも、各学校におきましては、へき地・複式教育における実践の成果が、すべての小・中学校の教育の充実につながるものとの気概をもって、小規模校の特性を生かした教育活動のさらなる充実に取り組んでいただくよう期待しております。

結びに、公開授業や研究発表をされました胆振管内の9校の校長はじめ教職員の皆様、本研究大会の開催にお力添えをいただきました関係者の皆様にお礼を申し上げますとともに、北海道へき地・複式教育研究連盟のますますの発展と会員の皆様のさらなる御活躍を祈念いたします。

第59回全道へき地複式教育研究大会胆振大会

実行委員長 佐藤 隆宏



緑の風薫る北の湘南、胆振の地に全道各地より約500名の皆様にご参加をいただいた、第59回全道へき地複式教育研究大会胆振大会を無事成功裏に終了することができましたことに胆振大会実行委員会を代

表し、心から感謝とお礼を申し上げます。

第1日目、開会式、基調報告に続いて、財団法人アイヌ民族博物館副館長の村木美幸様の「アイヌ民族の世界観」と題した貴重なご講演、そして夕刻の歓迎交流会。第2日目、3市6町9校における公開授業と分科会。どの会場も、真剣な眼差しで授業に臨む児童と指導者の姿、そして真摯な態度で授業を参観している多くの参加者の姿をみることが出来ました。

今、学校教育は、激しい変化の中にあります。教育基本法の改正、教育関連三法の成立、学習指導要領の改訂がなされ、小学校は、平成23年度から完全実施になります。それにともなう教育改革は今後ともより一層加速されることが予想されます。

昨年度の第8次長期5カ年計画の初年度にあたる網走大会では、小規模・複式形態の学校の良さを十分に発揮して、素晴らしい成果をあげられました。

本胆振大会は、第8次長期5カ年計画の二年次にあたります。研究主題「主体的・創造的に学び、豊かな心と確かな学力を！！」を定めました。昨年度の胆振プレ大会での成果と課題を明確にし、授業を公開する9校と胆振へき地複式教育連盟が一丸となり、組織的に取り組み、十分な成果を上げることができました。この胆振へき地複式教育の取り組みは第8次長期5カ年計画の三年次となる上川大会へと引き継がれ、一層の研究の深化が期待されています。

最後になりましたが、今回の研究大会開催にあたり、多大なるご指導とご支援、ご協力を賜りました北海道教育委員会、北海道教育庁胆振教育局、胆振管内各市町教育委員会、教育関係諸団体の多くの方々、そして、大会を支えてくださった全ての皆様の温かいご支援、ご協力に心から深く感謝申し上げます。

基 調 報 告

第59回全道へき地複式教育研究大会胆振大会

研究部長 山 本 他喜男



【はじめに】

胆振管内では昭和23年以来「教育にへき地があつてはならない」という先人の信念を継承し研究を積み重ねてきました。平成8年度には、『陽光あふれる胆振の大地で、すこやかに育つ

子らに、ふるさとのぬくもりと感動を!!』を合言葉に、第45回全道へき地複式教育研究大会胆振大会を開催し、生き生きと活動する子どもたちの姿を全道に発信し、高い評価をいただきました。

昨年度は、プレ研を開催し、これまでの成果と課題を全道へき地・複式教育推進の指針として、管内教育の充実・発展にも大きく貢献できました。

IT革命等によりへき地性が解消される中、急激な少子化や厳しい財政事情から学校の統廃合が加速度的に進んでいます。前回大会の平成8年度には管内14市町村、39校だった加盟校が、23年度には管内8市町、16校になる予定です。

今後とも、我々へき地教師は、へき地三特性（へき地・小規模・複式形態）をプラスに捉えた「特色ある教育活動」を力強く推進し、地域や保護者の信頼や負託に応えていかなければなりません。

【第8次長期5か年計画】

この8次長計は、我が国や本道の教育の今日的な動向や、新しい時代の北海道を創造的に築き担っていくことをめざして策定されました。研究主題を「主体的・創造的に学び、豊かな心でたくましくふるさとを拓く子どもの育成」、副主題を「～へき地・複式教育の特性を生かし、児童生徒一人一人に未来に生きる力を育む学校・学級経営と学習指導～」と設定したところであります。

8次長計は、課題の解明・解決に向けた実践的研究を基盤に、従来の長期・課題別・共同研究方式を

継承しています。この方式が成果を得るためには、各学校が研究目標や研究課題を明確にし、長期的な計画に基づき、研究・実践を通して成果と課題を集約していくことが大切となります。

【胆振大会の位置づけと各会場校の研究について】

第59回全道へき地複式教育研究大会胆振大会は、道へき・複第8次長期5か年研究推進計画の2年目にあたります。第7次長計で明確になった課題の解決に向け、昨年度は、網走大会が開催され、実践検証が図られました。胆振におきましても、昨年度のプレ大会を経て、実践検証を積み重ねてきました。

胆振へき地複式教育連盟では、これまで次の3点を本大会の目標として研究を推進しました。

- ①地域の自然や文化、歴史、産業、人材を積極的に教育活動に生かし「たくましく生きぬく子ども」の育成に努める。特に、豊かな学習環境（自然・人・もの）を教育活動に多用し、道徳的実践力の育成をめざす大会とする。
- ②過疎化が一層進む中、統合によるへき地校の廃校が急速に進んでいる。複式授業の在り方を根底から考え直すとともに、統合先の学校との連携や近隣校や地域との交流や共同研究を通して教職員の指導力向上を進める大会とする。
- ③少人数ならではのよさが生きる指導方法や指導体制の工夫改善を図ると共に、児童生徒の成長を見とり、認め励ます指導過程と評価の改善をめざす大会とする。

胆振大会の成果は、子どもたちの主体性・創造性を高め、豊かな心でたくましく生きぬき、ふるさとの未来を拓く力の育成の大きな力となりました。

【おわりに】

本大会の成功に向けて長い時間を多大なご苦勞をおかけし、取り組んでいただきました各分科会実行委員会の皆様方、貴重な実践と研究の成果を公開していただいた各会場校の先生方、児童の皆さん、そして、物心両面にわたり多大なご支援をいただきました関係機関の皆様に衷心より感謝を申し上げ、基調報告とします。